

# SAIL 'O' 通信 NO. 66

## 大阪帆船と国際交流の会

Sail And International Link of Osaka

編集責任者 北村・辻村 2018年1月21日発行

### 会報目次

1. ボランティアレポート、他
  - ① 客船歓迎ボランティア
    - 1) 客船シルバー・シャドー
  - ② 大阪港帆船EXPOボランティア
    - 1) 帆船EXPO (入港パレード出迎え) に参加して
    - 2) 大阪港帆船 EXPO
  - ③ イベントボランティア
    - 1) 大阪マラソンボランティア
2. 旅行記・イベント参加報告
  - ① セイル' O' 設立20周年記念パーティー
    - 1) セイル 'O' 設立20周年記念パーティーに寄せる
    - 2) 『大阪帆船と国際交流の会 SAIL 'O' と私』
    - 3) SAIL' O' 設立20周年記念行事報告
  - ② 平成29年 菱垣廻船復元プロジェクトの活動/第10回 天保山まつり
  - ③ セイルオー忘年会2017レポート ～楽しく盛り上がりました!～
3. その他情報
  - ① 会議等
    - 1) 大阪帆船と国際交流の会総会ご案内
  - ② イベント案内
    - 1) セイル' O' お花見会

### 記事本文

1. ボランティアレポート
  - ① 客船歓迎ボランティア
    - 1) 客船シルバー・シャドー
      - ◎ 2017年09月24日(金) 09時～16時
      - 船名: シルバー・シャドー
      - 国籍: パハマ 総トン数: 28,258トン
      - 入港: 9月24日08時 出港: 9月25日12時
      - 前港: 広島 次港: 東京

参加者： 井口、岩村、遠藤、大西、甲佐、近藤（昌）、高橋、田中（孝）、  
土井、山畑、10名

乗船客、乗組員に対しての和服の着付けと抹茶のお点前を行う。歓迎しようと待ち構えておりましたが、乗船客のスケジュール、または、時間の関係か、参加していただけませんでした。そのようなことで開店休業状態でした。

(遠藤さん)

## ② 大阪港帆船EXPOボランティア

### 1) 帆船EXPO（入港パレード出迎え）に参加して

10月26日（木）帆船EXPO、最初の行事、入港パレード「日本丸」「海王丸」「みらいへ」「大成丸」の四隻が入港。歓迎の横断幕提示を旗振りに参加。

10時天保山岸壁お弁当広場前に集合。

出席者は、遠藤さん、高橋さん、土井さん、中路さん、古江さん、私の6名。

まず、セイル“O”の幕を岸壁の階段に掲げる作業をする。できるだけ船から見えやすいようにと高さ、位置を考え、中路さん中心に皆で行う。

「海王丸」にエンジントラブルありとの情報が入り、入港は少し遅れたが、歓迎の音楽が大きく響くと皆は岸壁の前の方へ走り寄る。

まずは「日本丸」の入港、大阪湾の向こうにタグボートの援助を受け少しずつ近づいてくる。——皆の気分が高揚してくる——4本のマストが実にカッコよく、またしても SAIL OSAKA '97の30数隻の美しい帆船が帆をあげて入港してくる光景を思い出し感動を新たに。乗組員たちは船の右舷に一列に並んでおられる。私たちは細長の横断幕を手に満面の笑顔で歓迎！！旗を振る。私は左手に横断幕を右手に慣れないスマホで写真、動画を撮るのに一生懸命で（共に横断幕を持っていた人には迷惑をかけて紙面にてごめんなさい。）

次に「海王丸」、「みらいへ」と入港し、その毎に横断幕を広げて歓迎する。「日本丸」と「海王丸」が同時に入港するのは大阪港開港150年の特別イベントであり28、29日のセイルドリルや船内見学を楽しみにしていたが、なんと台風で中止となったので26日に参加していて本当に良かったと思いました。

それから、11月11日（土）のセイル“O”20周年パーティーのとき、かもめ（清水）さんに教えてもらった日本丸と海王丸の違いのところ、

日本丸は濃い青いライン1本、救命艇の色はオレンジ、海王丸は薄めの青いラインが2本、救命艇の色は白色とのこと。ぼんやり見ていたことに気付かされました。ありがとうございました。

(岩村清美さん)

### 2) 大阪港帆船EXPO

大阪港開港150年祭の一環として、10月26日（木）から30日（月）にかけて、独立行政法人海技教育機構に所属する、その帆装の美しさから「太平洋の白鳥」と愛唱され国民に広く知られる航海練習船『日本丸』と、大海原を帆走する美しい姿から「海の貴婦人」とたたえられる航海練習船『海王丸』、並びに国内海上輸送を担う海運業界の新人船員を育てるための内航用練習船『大成丸』、それに、一般社団法人グローバル人材育成推進機構に所属する元大阪市の「あこがれ」でセイルトレーニングなどのプログラムを通じて未来を創る人材育成に取り組む『みらいへ』の4隻の参加を得て、『帆船EXPO』が開催されました。初日の26

日は中央突堤北岸壁に大成丸が、天保山岸壁に日本丸、海王丸、みらいへが順次係留しました。

天保山に係留した帆船は、28日(土)には、セイルドリル(展帆訓練)が、29日(日)には、一般公開が予定され、大阪港で久々に見ることが出来る帆船の姿に多くの市民が熱い期待を寄せていました。ところが、無情にも、28日早朝、台風22号が奄美大島を北上、その接近に伴い、前線が刺激され、早朝から雨が降る天気。台風22号は、今後、日本列島を縦断する様相を示していたため、大阪港では台風警戒態勢に入り、残念ながら、28日、29日に予定されていたすべての行事が中止されることとなった。

28日08時にお弁当広場(客船ボラ活動場所)に集合したセイルオー会員は、岸壁上に張られたテントを使用して、セイルオーの活動をPRするためのリーフレットや20年の活動を集めた写真パネルを掲示する準備をして、港湾局からの指示を待っていましたが、中止の伝達を聞き、落胆を隠せませんでした。当日は、浅野さん、岩村さん、大西さん、澤さん、高橋さん、高見さん、田中(孝)さん、古江さん、吉田さん、中路、に午前大阪マラソンボランティアの説明会が大阪府咲洲庁舎で開かれ、それに出席していただき合流された遠藤さんの11名が参加しました。

(中路さん)

### ③ イベントボランティア

#### 1) 大阪マラソンボランティア

6月初め団体ボランティアの応募があり、11日、参加者15名で申請書を大会事務局に郵送した。9月、大会事務局から活動内容は中之島・土佐堀ブロックの10km地点で給水・スポーツドリンクの供給ボランティアであり、説明会を10月28日(土)10時から開催する旨の通知があった。後日、港湾局から10月26日から30日にかけて天保山岸壁ほかで帆船EXPOを行うので28日と29日の行事に協力してほしいとの要請があり、説明会への参加は遠藤さんに代わっていただいた。説明会では、説明書とウェア、キャップが支給された。説明会当日と11月11日のセイル“O”設立20周年記念パーティの場で参加者にウェアとキャップを配付した。配付の際に一つ目の間違いをしました。参加登録のあった近藤昌行様には、お渡しすべきところをお渡しせずしかもお渡ししたものと思い込んでしまい、大阪マラソン当日天満橋まで来られたものの結局参加されずに帰られることになりました。まことに申し訳ありません。

大阪マラソン当日の11月26日は、07時10分リーダー集合、07時40分メンバー集合であった。その時に二つ目の間違いをしました。配付すべきウェアとキャップ1セットの入った紙袋を地下鉄の網棚に忘れ、たまたま天満橋でお会いした遠藤さんにまたしてもリーダーミーティングに代理出席をお願いし、コスモスクエア駅まで取りに行くことになったので、集合時間に間に合わないことになりました。参加されたメンバーの方々にはご面倒をおかけしました。しかし、給水ボランティア活動は過去幾度も経験してきたことで、滞りなく準備を進められました。机の上に、ポカリスエットを半分入れた紙コップをびっしり並べ、紙コップの上にボードを敷き、二段目、三段目の紙コップはランナーが取りやすいように順次まばらに積み上げる作業です。指示によりごみは分別して処分するため、紙コップ用、ペットボトル用、ペットボトルのキャップ用、スポーツドリンクのチューブなどのビニール類用、一般ごみ用のごみ袋を別々に用意しました。(前回は、紙コップとランナーが自ら持参したサプリメントのチューブを一緒のごみ袋に入れたため後で分別するのに苦労しました。)

レースは8時50分車いす参加者がスタートし、09時ランナーがスタート。

我々の担当である10キロ地点の給水前を9時15分頃には車いすが通過。本当に速い。しばらくしてからランナーが続々と通過していく。トップランナーは紙コップを取ることもなく黙々と走る。その後、徐々に集団が大きくなり、三車線の走路いっばいに広がり、紙コップにてを伸ばすランナーが出てくる。ペンキで顔を塗ったり、ゆるキャラのカムリも物をつけたり、思い思いのキャラで走り、マラソンを楽しんでいる。11時を過ぎ、最後のランナーが通過し、後片付けを始めた。事前にごみの分別をしてあるので片付けもスムーズに行えた。

ボランティア活動を終了後は、スーパーで飲み物、食べ物を各自手当てし、キタリシテで昼食兼反省会を行った。次回の大阪マラソンは18年11月25日(日)です。

参加された秋永さん遠藤さん大西さん甲佐さん澤さん下川さん高橋さん高見さん田中孝枝さん谷口さん土井さん古江さん村田さん山畑さん吉川さんお疲れさまでした。

(中路さん)

## 2. 旅行記・イベント参加報告

### ① セイル‘O’設立20周年記念パーティー 他

#### 1) セイル‘O’設立20周年記念パーティーに寄せる

設立からの先輩方は懐かしい思い出や苦労話に時を過ごされたことと思います。

私もパーティーに参加させていただき感激しました。セイル‘O’の入会のきっかけですが、2011年3月10日正田さんと麻田さんの紹介です。当日の事をはっきりと覚えております。「外国語がわからなくてもいいよ、身振り手振りで通じるよ。」とのことで決心。大阪港に入港中の大きさに(クイーンII、総トン数151,400トン)、いつも間にビルができた?そんな豪華客船驚きました。2014年12月6日にはヨット乗船(BACCHUS)。セイル‘O’に参加していなければ一生乗船することがなかったと思います。又、2017年4月20日、21日には長崎帆船まつりに北村さんの案内で楽しい時間を過ごせました。有難う御座いました。入会から6年が過ぎました。楽しい思い出も多かったです。これからも皆さんと楽しいセイル‘O’になりますよう頑張っていきます。

(遠藤さん)

#### 2) 『大阪帆船と国際交流の会 SAIL ‘O’ と私』

それはSAIL OSAKA’97にはじまった。1997年3月下旬から5月上旬にかけて、世界各国のセイル・トレーニング帆船が参加する「SAIL OSAKA’97香港/沖縄/鹿児島/大阪国際帆船レース」で、香港をスタートした後、那覇港と鹿児島港に寄港してゴールの大阪を目指す。参加船の乗員は、レース中は勿論のこと、各寄港地での歓迎行事を通じて、乗員同士や一般市民と交流を深め各地の文化に触れることもできる。さらには、一般市民も帆船やヨットに乗船してレースに参加でき、各寄港地での歓迎行事へのボランティア参加も積極的な呼びかけがあった。海という舞台で感動をわかちあえる「市民参加型イベント」をめざすこと、それがSAIL OSAKA’97の精神であった。

私も早々、ボランティアに応募した。結果、ポーランドの帆船、ダル・モージェイ(若者の贈り物、という意味)、運営ボランティアに配属となった。ダル・モージェイは他の帆船のなかでも、ひときわ美しく、帆を全開した姿は洋上に白鳥が浮かぶようであった。また大阪港に船員が登しょう礼で入ってきたときの雄姿は、今も忘れられない。

参加帆船は大型帆船からヨットまで、世界17カ国1地域の48隻である。レース終了後の4月29日には、イベントの最後を締める大阪湾の帆船パレードが行われ、大阪港は10万人を超える人出でにぎわった。乗員パレード、親善パーティーや大阪市内観光など多彩な行事がゴールデンウィークの期間に開催された。

イベントは終了したが、ボランティアの打ち上げ会では宴の熱気がまだまだ残り、自然発生的に、

このメンバーでまた何かをしたいという声があがった。そして誕生したのが、「大阪帆船と国際交流の会 SAIL 'O'」である。私の手元にある最も古い会員名簿(2000年5月31日)では、90人が在籍している。パワーバンク登録票を提出し、語学力や特技や平日の活動が可能か、急にボランティアとして求められたときの体制も整えた。

会発足の経緯からか、大阪市からの要請が多く、東アジア競技大会、アジア卓球選手権大阪大会、またオリンピック大阪招致イベント(なつかしい、今となっては、浪速の夢です)、FIFAワールドカップと実績を積んできた。そして大阪マラソンには2011年の第1回から団体ボランティアに登録、大阪のボランティア団体の地位を確立している

個々人の力量から、「あこがれ」(大阪市のセイル・トレーニング、残念ながら事業は終了)で乗船を続ける人や、自身で北港ヨットハーバーにヨットを持ち航海するメンバーもいて、彼らと交流するなかで、私の体験できないことを感じ取ることができる。また SAIL OSAKA'97でメキシコ帆船、クアテモック担当だったメンバーは、メキシコ好きが高じて、「フィエスタ・メヒカーナ」を開催した。毎年9月に、梅田スカイビル下広場はメキシコのお祭りで一色となる。SAIL 'O'の歩みと共に続いているイベントである。

何といっても、帆船を謳う会として本骨頂は、メルボルン/大阪ダブルハンドヨットレースのボランティア活動である。姉妹港のメルボルンを3月にスタートし、赤道を越え、どこの港にも寄らず、4月から5月、大阪まで走り続ける。スキッパー(艇長)とクルー(乗務員)2人だけで操縦することをダブルハンドと言う。4月下旬、昼夜を問わず、続々と各チームが北港ヨットハーバーにゴールしてくる。私たちは彼らの歓迎セレモニーや日本滞在中のサポートをする。そして今年2018年に再び開催予定である。

SAIL 'O'が地道に長く活動していることに、「客船入港歓迎活動」がある。天保山に停泊期間中は、日本文化紹介やインフォメーションセンターも開設する。乗船客対象に、呈茶のお茶とお菓子の提供、箏の演奏、最近では振袖を簡単に着付けて箏の前に座って写真を撮すという体験が好評である。SAIL 'O'のホスピタリティーが発揮でき、国際交流の名にふさわしいボランティア活動と言える。

会は発足20年を経た。SAIL OSAKA'97当事のメンバー以外の人も増えている。高齢で亡くなられた方もいる。それでも40名ほどの会員であり、団体としてのパワーは確保している。何より個々のスキルとモチベーションは貴重な財産である。おそろいでSAIL 'O'ロゴ入りジャンパーを作りチームの結束も確認した。時代はインバウンド真っ盛り、このチャンスに、SAIL 'O'の培ってきたホスピタリティーや専門性を投入して、ますます活躍していくものと思う。

(篠原 眞知子さん)

### 3) SAIL 'O' 設立20周年記念行事報告

11月11日(土)にSAIL 'O'設立20周年記念式典とパーティを大阪港駅近くの洋食のビーハイブで行いました。

本来ならば、設立当時からの元会員全員にも案内を出したいところでしたが、設立時の会員は273名もいて、その頃はメールや携帯電話も一般的ではなく、今回の案内は郵便しか無理ということで大量の宛先不明による返送も予測され、仕方なく5年前からの名簿とそれ以前の名簿の中から所在がはっきりしている人、そして現在もSAIL 'O'と何らかのつながりがある人に案内を出しました。

当日は、ご来賓6名、現会員22名、元会員13名の合計41名という予想以上に大勢の参加者で、会場は貸切りに出来たものの2部屋になりました。

11時の開場前から何名もの方が到着され、準備と受付はおおわらわでした。しかし、段取りの良さは皆慣れたもので、予定通り11時には記念式典を始められました。式典は、中路代表の開会の辞に続いて、大阪市港湾局計画整備部振興課の宮ノ前課長代理の祝辞、大阪北港ヨ

ットクラブの藤本事務局長の祝辞を頂きました。祝辞には、関係各所と良好な関係が保たれていることや、日頃の SAIL' O' の活動に対する感謝の言葉等が含まれていました。その他にもご来賓として、大阪市港湾局計画整備部振興課 辻本係長、大阪港振興協会 佐古次長、大阪港振興協会 出水総務課長がご出席くださいました。この日はちょうど客船が入港していて皆さんお忙しい中でご都合をつけていただけたことに感謝いたします。

12 時からのパーティは、事業担当の遠藤さんの開宴の辞に続き、事業担当の吉田さんの乾杯で和やかに始まりました。久しぶりに顔を合わせた人達が、それぞれ楽しく歓談を行ったり、展示されたアルバムに目を通していました。

お仕事の都合で式典に間に合わなかった大阪港振興協会 有田事務局長がやがて到着されてご挨拶を頂きました。また、急遽準備したアトラクションの福引きでは、SAIL OSAKA' 97 のグッズなどが景品に出されて大いに盛り上がり、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。中締めは高見副代表が行い、予定通りの時間で終宴となりました。

その後、全員で店の前で記念撮影をしましたが、大人数でしたので全員が写ったかどうか心配です。そして、ちょうど天保山に入港していた客船スーパースター・ヴァーゴを見たいという意見が出て、「ヴァーゴを見に行きたい人」と言って手を挙げてもらうと、全員だったことにはちょっと驚くと同時に、やはりみんな船が好きな人ばかりで、気持ちがひとつだなど感動しました。大阪港振興協会さんのご好意で、全員で特別に岸壁からヴァーゴを見学をしました。そして、ここでも船をバックに記念撮影ができたのは、とても良い 20 周年記念となりました。一部の人は、写真を撮るために渡し船で対岸に渡ったようです。

この行事を企画段階から手伝ってくださった方々、当日の準備や会計、写真撮影などをしてくださった方々、心よく参加してくださった元会員の方々、ご来賓の方々、そして、この日に参加できなかったけれど SAIL' O' に貢献してくださった方々、みなさんで分かち合えた SAIL' O' の 20 周年のお祝いは大成功でした。皆さん、ありがとうございました。次は、30 周年でしょうか？ その前に、今年は 3 月にクイーン・エリザベス号の入港や「2018 メルボルン大阪ダブルハンドヨットレース」など、楽しみがたくさんあります。これからもみんなで楽しくボランティアを続けたいですね。

(土井さん)

## ② 平成 29 年 菱垣廻船復元プロジェクトの活動/第 10 回 天保山まつり

大阪港開港 150 年祭\_第 10 回え～やん！天保山まつり、楽しみにしていた浪華丸ヒガキくん。まちなかパレードは台風 22 号の影響により、残念ながら市民の皆さんにお披露目することが出来ませんでした。ここで約 5 カ月間の復元作業を紹介させていただきます。

今年 6 月から始めた復元作業は延べ日数:39 日間(部材購入の日数は含まず)  
復元作業に参加した方の数、延べ 135 名。

### 【実施した主な復元項目】

- ・合羽甲板の製作(荷室含む)
- ・上貫木(うわかんのき)及び八頭(やつがしら)の製作取り付け
- ・新製作箇所及び部材をオイルステインにて塗
- ・箆緒(はずお)を麻のロープ製に交換、・帆摺管(はずれくだ)を新に作成しました。
- ・碇(いかり)の製作(5 本) /その他、タイヤの空気圧点検及びエア充填

港住吉神社(大阪市港区築港)氏子の皆さまをはじめ多くの方からの応援がチカラになり完成

することができましたこと感謝しお礼を申し上げます。

さて最終作業日 28 日(土)雨の止み間に格納庫から出し、大阪市立築港中学校 美術部の生徒さん達の力作！ 動物たちと船をモチーフに仲間達との繋がりを大切にする物語を描いた創作絵画のバナーを浪華丸ヒガキくんに取り付けて写真に収めました。

そして第 10 回え～やん！天保山まつりは、内容を縮小し、客船ターミナルで行われました。そのなかで国土交通省から「みなとオアシス大阪港・天保山」として認定の式典が行われました。開港 150 年を機に更なる賑わいを楽しみしつ平成 29 年 復元プロジェクトの航跡は、みんなの功績でもありました。

(高見さん)

### ③ セイルオー忘年会 2017 レポート ～楽しく盛り上がりました！～

毎年セイルトレーニングに関わってきたメンバーで構成するウィンズクラブと合同で行っている年末の懇親会。2017 年(平成 29 年)12 月 2 日(土)も大阪市此花区/大阪北港マリーナにあるメルボルンハウスをお借りして賑やかに行うことができました。

さて、このメルボルンハウス。4 年ごとに大阪市が主催していたメルボルン大阪ダブルハンドヨットレースに参加のエントラント(競技者)を迎えるのと市民交流の場を目的に 1998 年に建設されました。現在も NPO 法人 大阪北港ヨットクラブが管理し国内外のエントラントを迎えてのコミュニケーションの場としても有効活用をしています。この施設の建設から 20 年を迎える今年、メルボルン市と大阪市の姉妹都市提携から 40 年目の記念すべき年にメルボルン大阪カップ 2018 ダブルハンドヨットレースが始まります。3 月下旬の予定で豪州メルボルン港を約 30 艇が大阪を目指してスタート。南半球から赤道を超える距離は約 5,500 マイル(約 10,200 km)。参加艇のフィニッシュは大阪北港マリーナ！4 月中旬から 5 月上旬に大阪湾に入ってきます。日本からは大阪の Bartolome/バルトロメ号(森村 圭一朗氏、表 正和氏)が参戦。今年に参加艇への応援と栄誉を称えるウェルカム行事の市民交流で盛り上がりましょう。

(高見さん)

## 3. その他情報

### ① 会議等

#### 1) 大阪帆船と国際交流の会総会ご案内

日時：2018 年 2 月 17 日(土) 10 時から 12 時まで

場所：大阪ボランティア協会会議室

(大阪市中央区谷町 2 丁目 2-20 大手前類第 1 ビル 2 階)

その他：①出欠は同封している返信用はがきにてご連絡ください。

②総会の議題は次のとおりです。

議案 1 平成 29 年度事業報告

議案 2 平成 29 年度決算報告・会計監査報告

議題 3 平成 30 年度役員選出

(代表・副代表・事業担当・広報担当・会計担当・会計監査)

議題 4 平成 30 年度事業計画案

議題 5 平成 30 年度予算案

議題 6 その他

\*役員について応募される方は中路までご連絡ください。業務参考資料を送信いたします。

## ② イベント案内

### 1) セイルO'お花見会

今年もセイルオーお花見会があります。

日程：4月7日（土）早朝要場所取～夕方ごろまで、

場所：大阪城公園、また例年どおり各自持寄。

桜の下で春の陽気を満喫しながらの懇親会。

港や海の情報交換など話題が満載です。

ぜひご参加ください。

\*場所取隊員募集！高見まで

### 編集後記：

1月付けで長崎より関西に異動となり戻って参りました。長崎は本当に美しく、魚が旨くて人もやさしい上、職場から毎日色んな船も見れて楽しい日々でした。皆さんチャンポンにも非常にこだわりを持たれていましたよ。またそのうち訪れたい街です。

(北村)

珍しく関西勤務が続いています。いつまでいるか分かりませんが、よろしくお願いたします。

(辻村)